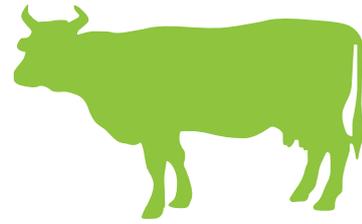


牛肉



◆ 飼養動向

7年2月現在の肉用牛の飼養頭数、前年比2.9%減

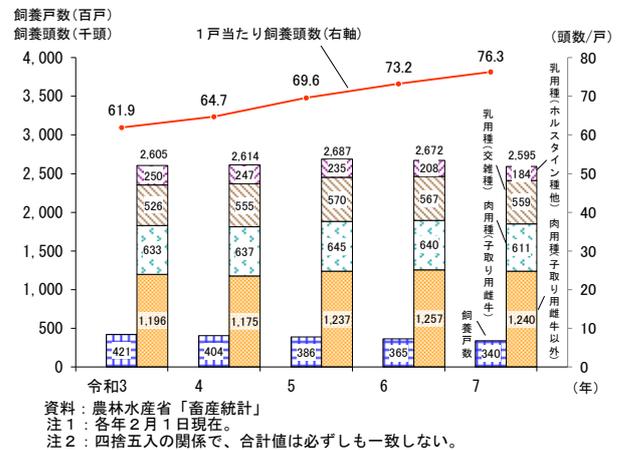
肉用牛の飼養戸数は、小規模層を中心に減少傾向が続いており、令和7年（2月1日現在、以下同じ）は、3万4000戸（前年比6.8%減）と前年からかなりの程度減少した（図1）。

総飼養頭数は、近年増加傾向にあったが、259万5000頭（同2.9%減）と2年連続して前年からわずかに減少した。肉用種と乳用種をそれぞれ見ると、肉用種は185万1000頭（同2.4%減）とわずかに、乳用種^{（注）}は74万3800頭（同4.0%減）とやや、いずれも前年から減少した。乳用種のうち交雑種は、55万9400頭（同1.4%減）とわずかに、ホルスタイン種他は、18万4400頭（同11.3%減）とかなり大きく、いずれも前年から減少した。

一方、1戸当たり飼養頭数は、76.3頭（同4.2%増）と前年からやや増加し、同頭数の増加傾向は継続している。

（注）「畜産統計」では、乳用種の肉用牛とは、ホルスタイン種、ジャージー種などの乳用種の牛のうち、肉用を目的に飼養している牛で、乳用種と肉用種の交雑種を含むと定義されている。

図1 肉用牛の飼養戸数および飼養頭数の推移



◆ 生産

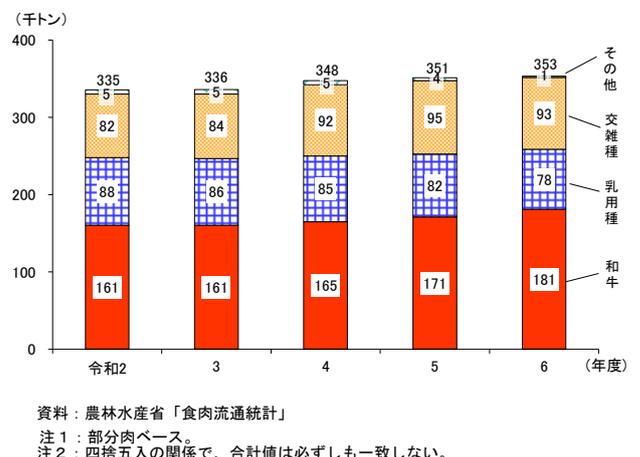
6年度の生産量、前年度比0.6%増

牛肉生産量は、畜産クラスター事業の取り組みなどにより、平成29年度以降、和牛を中心におおむね増加傾向で推移している。

令和6年度は、和牛は18万978トン（前年度比5.8%増）と前年度をやや上回った一方、交雑種は9万3150トン（同2.0%減）とわずかに、乳用種は7万7894トン（同4.5%減）とやや、いずれも前年度を下回った（図2）。

この結果、全体では35万3451トン（同0.6%増）と前年度からわずかに増加した。

図2 牛肉の生産量の推移



◆ 輸入

6年度の輸入量、前年度比0.9%増

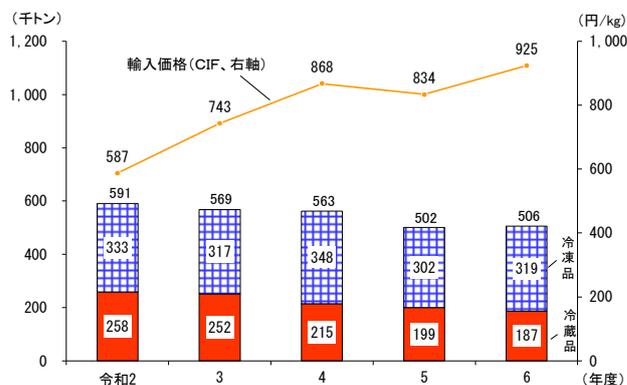
牛肉輸入量は、平成28年度から令和元年度までは増加傾向で推移していたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）や物価上昇の影響による需要低迷や為替相場の円安傾向の影響などから減少傾向にある。

令和6年度は、米国からの輸入量は引き続き減少している一方、豪州からの輸入量が増加したため、全体で50万6260トン（前年度比0.9%増）と前年度をわずかに上回った（図3）。このうち、冷蔵品は18万6910トン（同6.3%減）と前年度をかなりの程度下回った一方、冷凍品は31万9102トン（同5.7%増）と前年度をやや上回った。

輸入価格（CIF）は、現地価格の上昇や為替相場の円安傾向などにより、1キログラム当たり925円（同10.9%高）と前年度をかなりの程度上回った。

輸入先別では、牛飼養頭数の減少などによる現地相場高などの影響により米国産が17万6562トン（同7.9%減）と前年度をかなりの程度下回った一方、主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加した豪州産が24万1517トン（同9.2%増）と前年度をかなりの程度上回った（図4）。この結果、シェアは、豪州が全体の48%、米国が同35%を占めた。

図3 牛肉の冷蔵品・冷凍品別輸入量および輸入価格の推移

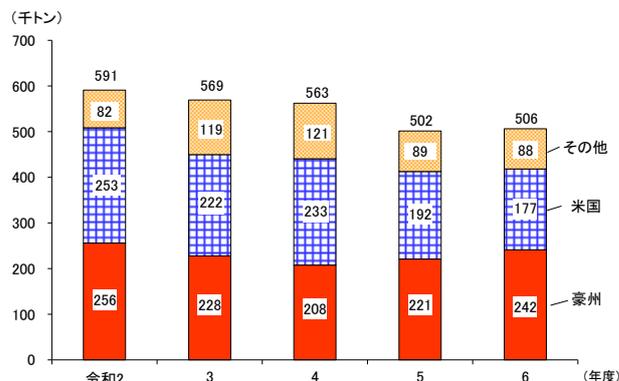


資料：財務省「貿易統計」

注1：部分肉ベース。

注2：合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図4 牛肉の輸入先別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：部分肉ベース。

注2：煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

注3：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

◆ 輸出

6年度の輸出量、前年度比20.3%増

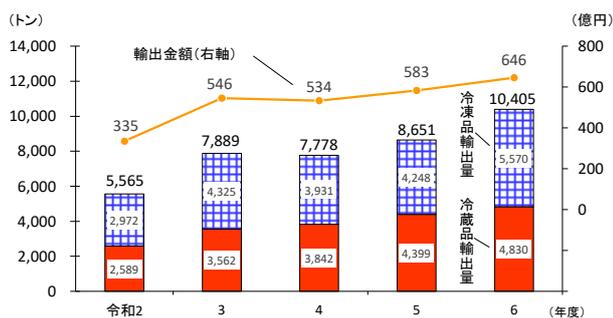
牛肉輸出量は、近年、販路の開拓や販売促進の効果などにより増加傾向で推移しており、令和6年度は、特に米国向けは新規商流開拓、台湾向けは外食需要の増加により増加し、1万405トン（前年度比20.3%増）と大幅に、輸出金額も646億円（同10.9%増）と

かなりの程度、いずれも前年度を上回った（図5）。

輸出量の内訳を見ると、冷蔵品は4830トン（同9.8%増）とかなりの程度、冷凍品は5570トン（同31.1%増）と大幅に、いずれも前年度を上回った。冷蔵品と冷凍品の割合は、4年度および5年度は同程度

で推移していたが、6年度は冷凍品の割合が上回った。

図5 牛肉の輸出量および輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注1：部分肉ベース。
注2：合計は、枝肉・半丸枝肉、骨付きを含む。

◆消費

6年度の推定出回り量は前年度比3.3%減、家計消費は同5.1%減

推定出回り量

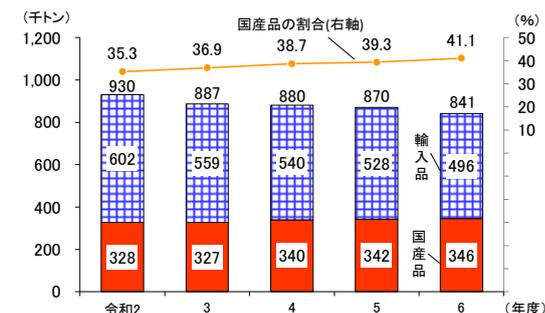
牛肉の推定出回り量は、COVID-19発生後は、その影響によるインバウンド需要や外食需要の減少などにより減少傾向で推移していた。

令和6年度は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりや為替相場の円安傾向などの影響により輸入量が減少し、84万1435トン(前年度比3.3%減)と前年度をやや下回った(図6)。

出回り量の内訳を見ると、国産品は34万5636トン(同1.0%増)と前年度をわずかに上回った一方、輸入品は49万5799トン(同6.1%減)と前年度をかなりの程度下回った。

なお、合計に占める国産品の割合は41.1%(同1.8ポイント増)と5年連続で前年度を上回った。

図6 牛肉の推定出回り量の推移

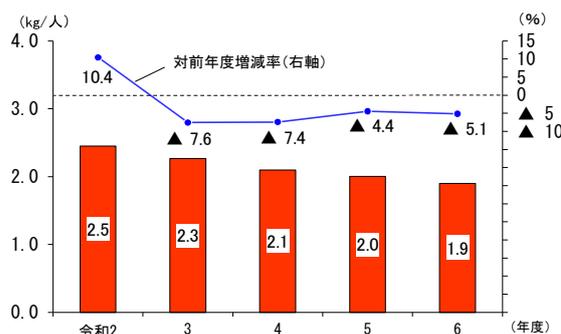


資料：農畜産業振興機構推計
注1：部分肉ベース。
注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

家計消費

牛肉消費の約3割を占める家計消費について、令和6年度は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりなどにより、年間1人当たり1.9キログラム(前年度比5.1%減)と、前年度をやや下回った(図7)。

図7 牛肉の家計消費量(全国1人当たり)の推移



資料：総務省「家計調査報告」
注：1世帯当たりの数値を世帯人数で除して算出。

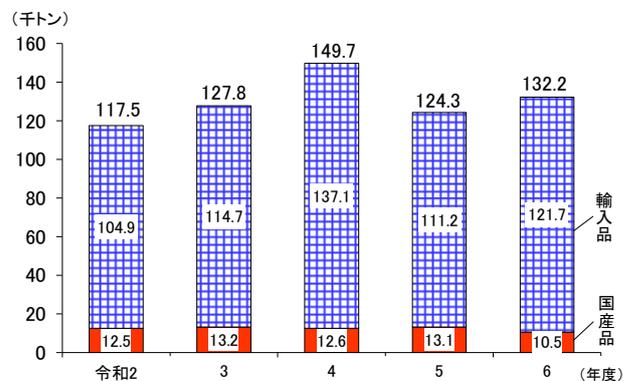
◆在庫

6年度の推定期末在庫量、前年度比6.3%増

牛肉の推定期末在庫量は、約9割を輸入品が占めており、輸入量の影響を受け、増減を繰り返しながら推移している。

令和6年度は、13万2208トン（前年度比6.3%増）と前年度をかなりの程度上回った。このうち、国産品は1万518トン（同19.8%減）と前年度を大幅に下回った一方、輸入品は12万1690トン（同9.4%増）と前年度をかなりの程度上回った（図8）。

図8 牛肉の推定期末在庫量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：部分肉ベース。
注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

◆枝肉卸売価格

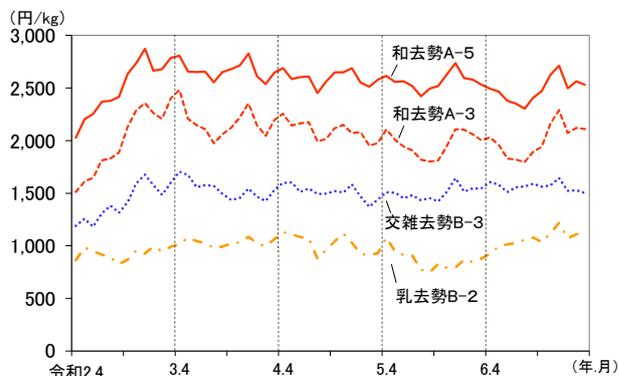
6年度の枝肉卸売価格、交雑種、乳用種で上昇

和牛（東京・去勢A-5、A-3）の枝肉卸売価格は、令和6年度は、比較的値頃なA-3では後半にかけて前年を上回る水準となる月が多かった。年度平均では、A-5が1キログラム当たり2483円（前年度比3.1%安）とやや下回った一方、A-3が同2002円（同1.7%高）と前年度をわずかに上回った（図9）。

交雑種（東京・去勢B-3）の枝肉卸売価格は、6年度は年度を通じて前年を上回る月が多く、年度平均では、1キログラム当たり1562円（同4.0%高）と前年度をやや上回った。

乳用種（東京・去勢B-2）の枝肉卸売価格は、6年度は年度を通じて前年を上回る月が多く、年度平均では、1キログラム当たり1064円（同23.3%高）と前年度を大幅に上回った。

図9 牛肉の卸売価格（東京・品種・規格別）の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：消費税を含む。

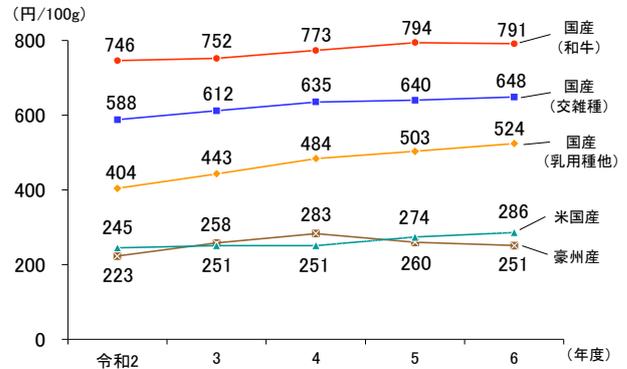
◆小売価格

6年度の小売価格、国産（交雑種、乳用種他）、米国産で上昇

牛肉の小売価格は、品種や部位によって動きは異なるが、おおむね上昇傾向で推移している。令和6年度は、特に国産（交雑種、乳用種他）、米国産で価格が上昇した。

6年度の小売価格（ばら）は、和牛は100グラム当たり791円（前年度比0.4%安）、国産牛（交雑種）は同648円（同1.3%高）、国産牛（乳用種他）は同524円（同4.2%高）、米国産は同286円（同4.4%高）、豪州産は同251円（同3.5%安）となった（図10）。

図10 牛肉の小売価格（ばら）の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：消費税を含む。

◆肉用子牛

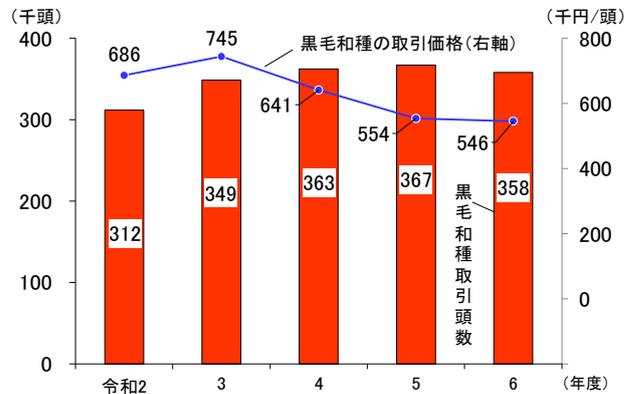
6年度の肉用子牛価格、黒毛和種は前年度比1.5%安

黒毛和種

家畜市場における黒毛和種の子牛取引頭数は、令和6年度は、35万8054頭（前年度比2.5%減）と前年度をわずかに下回った（図11）。

黒毛和種の子牛取引価格は、平成28年度をピークに低下する中、令和2年2月以降、COVID-19の影響による枝肉価格の低下に伴いさらに低下した。その後、枝肉価格の上昇などにより回復したが、4年5月に急落してから、和牛枝肉価格の低迷や配合飼料価格の高止まりなどを背景に、肥育農家の子牛購買意欲が減退したことから、子牛価格の下落傾向が継続していた。なお、令和6年11月以降は価格が上昇したが、6年度全体としては、1頭当たり54万6千円（同1.5%安）と前年度をわずかに下回った。

図11 黒毛和種の取引頭数と市場取引価格の推移



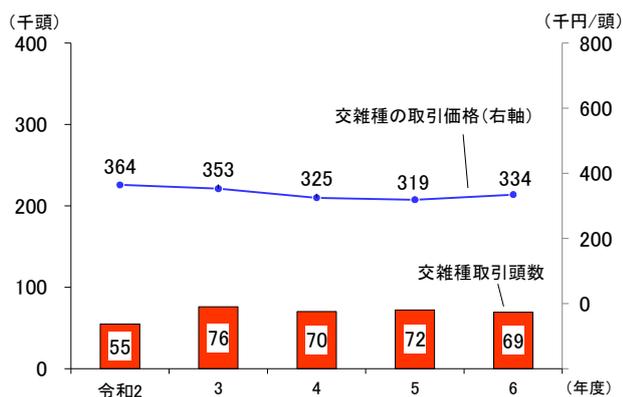
資料：農畜産業振興機構調べ
注1：消費税を含む。
注2：市場取引価格は、各月の平均価格の単純平均である。

交雑種

家畜市場における交雑種の子牛取引頭数は、令和6年度は、6万9272頭（前年度比3.9%減）と前年度をやや下回った（図12）。

交雑種の子牛取引価格は、6年度は、1頭当たり3万4千円（同4.9%高）と前年度をやや上回った。

図12 交雑種の取引頭数と市場取引価格の推移



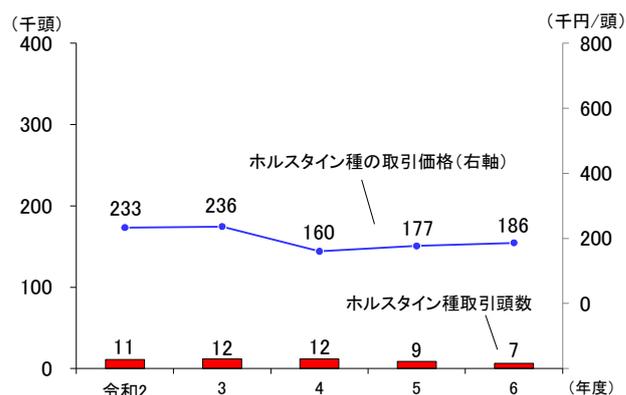
資料：農畜産業振興機構調べ
 注1：消費税を含む。
 注2：市場取引価格は、各月の平均価格の単純平均である。

ホルスタイン種

家畜市場におけるホルスタイン種の子牛取引頭数は、令和6年度は、6666頭（前年度比22.9%減）と前年度を大幅に下回った（図13）。

ホルスタイン種の子牛取引価格は、6年度は1頭当たり18万6千円（同5.6%高）と前年度をやや上回った。

図13 ホルスタイン種の取引頭数と市場取引価格の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
 注1：消費税を含む。
 注2：市場取引価格は、各月の平均価格の単純平均である。